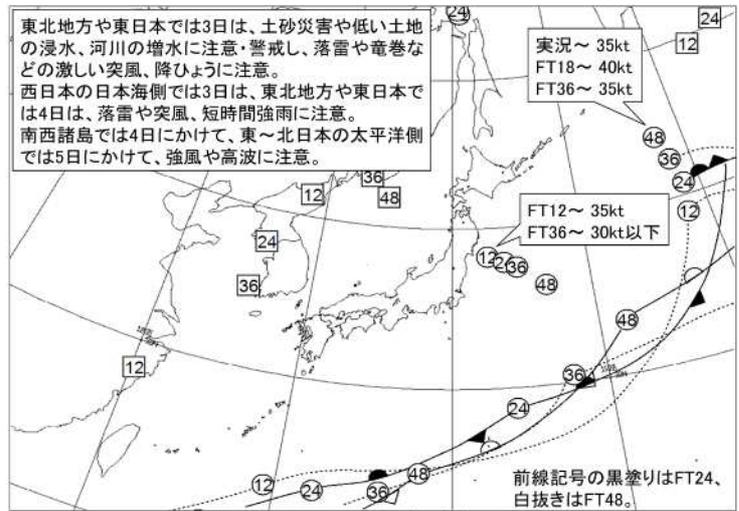


1. 実況上の着目点

① 北日本には、500hPa -18℃以下の寒気を伴った寒冷渦があってゆっくり東進。対応する低気圧が日本海中部でほとんど停滞している。低気圧からシアラインが北日本～関東の南東海上にかけてのびている。北日本では下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となっている。東北地方や東日本では20～30mm/1hの雨量、伊豆諸島付近では60mm/1hの雨量を解析。関東甲信地方では、雷を多数検知。

② 日本の東～日本の南を通り、沖縄の南にかけてのびる前線上の沖縄の南には、低気圧があって東進。低気圧や前線に向かって南から下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定となっている。沖縄の南では60mm/1hの雨量を解析。雷を多数検知。



2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

① 1項①の寒冷渦に対応する日本海中部の低気圧はシアラインとともに次第に不明瞭となる。また、3日夜までには三陸沖で別の低気圧が発生し、4日にかけてゆっくり東南東進し日本の東に進む。上空の寒気や低気圧及びシアラインに向かって流入する850hPa θ_e 318K以上の下層暖湿気の流入により、引き続き、大気の状態が非常に不安定となっており、雷を伴った激しい雨が降り、大雨となる所がある。東北地方や東日本では3日は、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。西日本の日本海側では3日は、落雷や突風、短時間強雨に注意。

② 4日は、500hPa -15℃以下の寒気を伴ったトラフが深まりながら東～北日本付近を通過。日射の影響も加わり、午後を中心に大気の状態が不安定となり、甲信地方では熱的低気圧が形成される。東北地方や東日本では4日は、落雷や突風、短時間強雨に注意。

③ 1項②の低気圧周辺や前線の近傍、低気圧や前線と華中の高気圧との間で、4日にかけて、気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて、波が高くなる所がある。南西諸島では4日にかけて、強風や高波に注意。

④ 3日は、2項①の日本海中部の低気圧やシアラインと千島の東の高気圧、3日夜から2項①の三陸沖の低気圧と千島の東からカムチャツカの東に進む高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて、波が高くなる所がある。また、日本のはるか東から千島の東に進む低気圧からのうねりも加わり、北日本では4日はしけとなる所がある。東～北日本の太平洋側では5日にかけて、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠] ①大雨ポテンシャル(18時からの24時間)：高い所(100mm以上)はない。②波浪(明日まで)：東北4、関東・沖縄3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。